

平成25年6月13日

協会けんぽ加入者の健康課題

全国健康保険協会

保健第二グループ長

六路 恵子

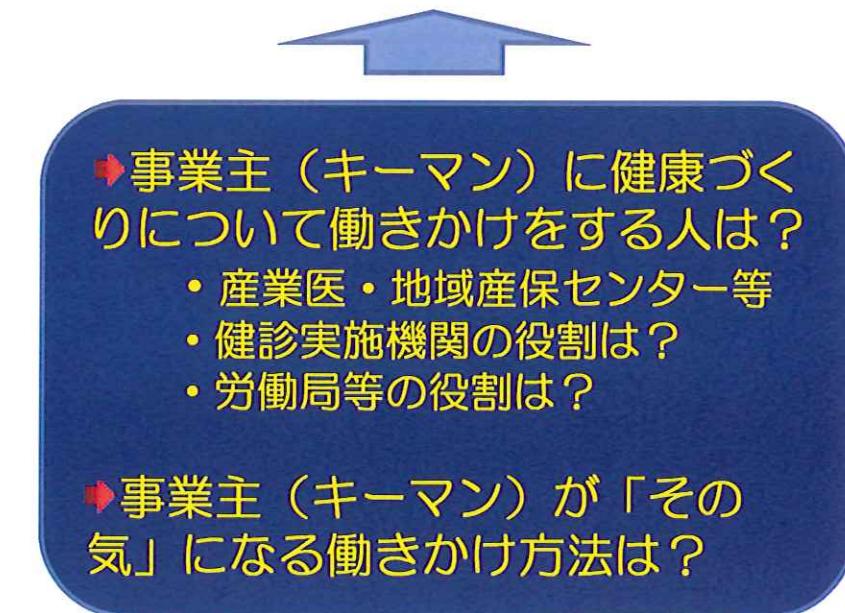


全国健康保険協会

中小規模事業所の弱みを知り、強みを活かした活動を

- 事業所で健康管理が十分には行なわれていない(安衛法に基づく対策が取り組まれていない)
 - ・50人未満の小規模事業所が96%。産業医はない。
 - ・厳しい経営状況
- 加入者の経済状況が厳しい
- 組合健保加入者に比べ、高額の医療費がかかっている
- 協会けんぽと事業主の距離が遠い
 - ・事業所の健康づくり活動が健康保険料に直結するという意識を持ちにくい
- 人と人のつながりが希薄な場合がある。転職が多い。
 - ・毎年加入者の20%以上が脱退し、新規加入している
- 加入者の健康課題は、地域の課題と直結している

- 事業主(キーマン)の考え方次第で健康づくり活動が左右される!事業主がその気になるような働きかけが重要!
- 事業主と従業員一人一人が直結している!
一人一人の顔が見える関係である!
- 人と人のつながりが強い事業所がある!



協会けんぽの概要

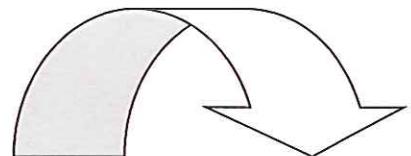


全国健康保険協会

全国健康保険協会は、平成20年10月に政府管掌健康保険を
国から引き継ぎ、スタートしました

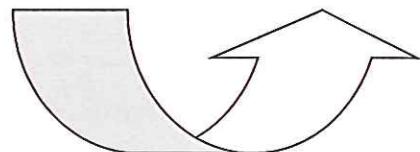
【新組織…公法人(民間)による運営】

平成20年10月



【全国健康保険協会】

健康保健事業を担う
(中小企業で働く被用者の方)



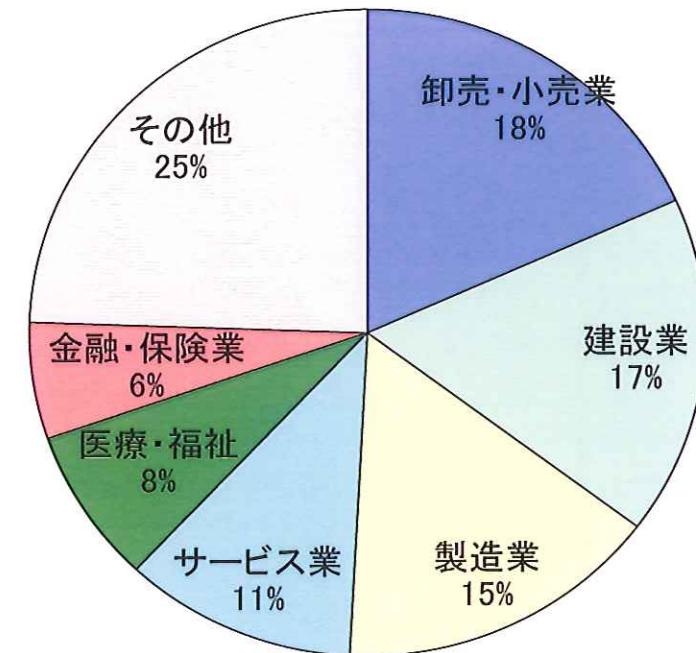
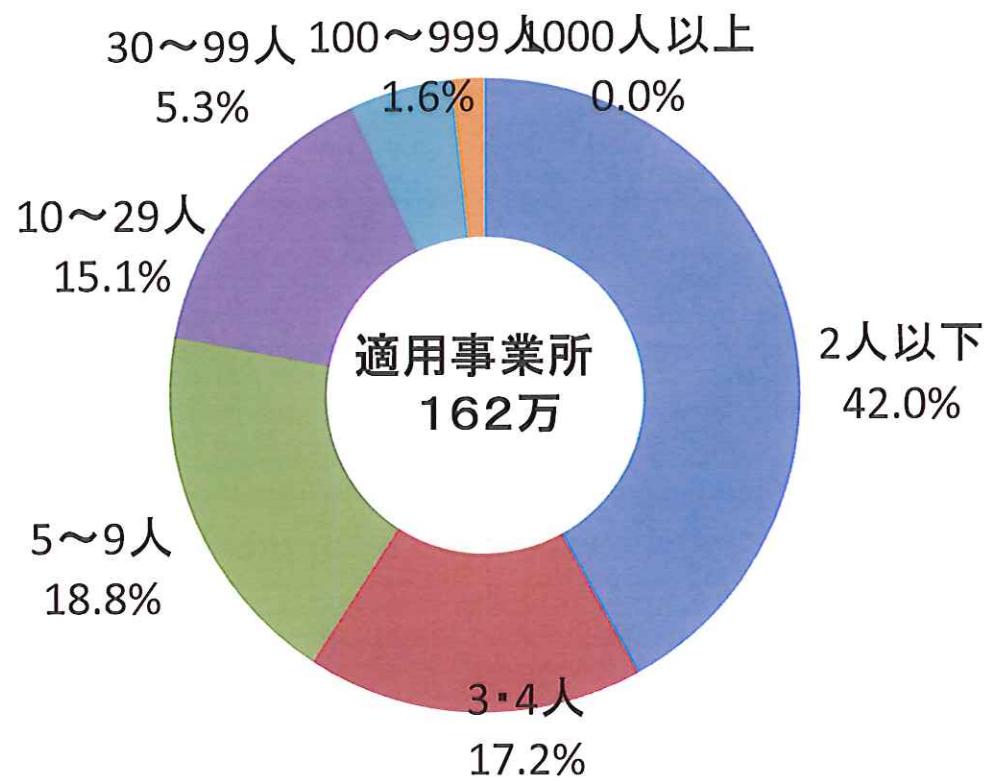
平成22年1月

【日本年金機構】

公的年金の運営業務を担う

適用事業所の規模別・業種別構成（24年3月）

162万事業所のうち10人未満の事業所が78%、50人未満が96%。
小売業、建設業、製造業で30%を占める。



医療保険者別加入状況

協会けんぽは、日本最大の健康保険を運営する保険者である。162万事業所で働く従業員の方とそのご家族（約3,500万人）の健康を支えている。

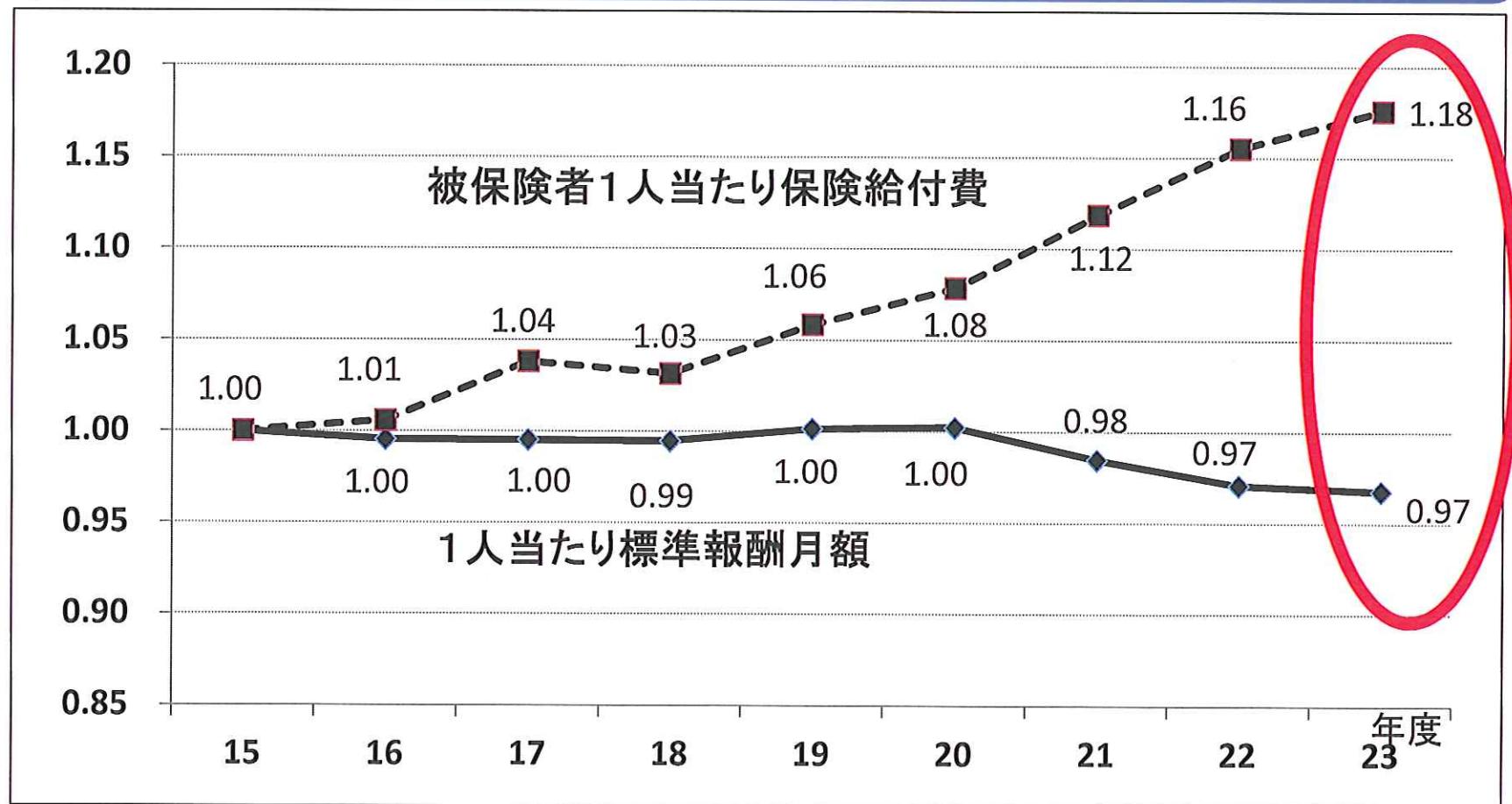
加入者	制度	保険者名	加入者数	保険者数	保険料率
サラリーマンとその家族	全国健康保険 協会管掌 健康保険	全国康保険協会 (協会けんぽ)	3,488万人 162万事業所	1	平均 10.0%
	組合管掌 健康保険	162万事業所・3500万人		1,443	平均 8.635%
自営業者等	国民健康保険	市区町村	4,688万人	1,804	
公務員等と その家族	共済組合	共済組合	919万人	85	国共済 平均 8.20%

※加入者数；平成24年3月末現在。

※保険料率；協会けんぽ、国共済は平成25年度全国平均。健保組合は平成25年度予算早期集計平均。

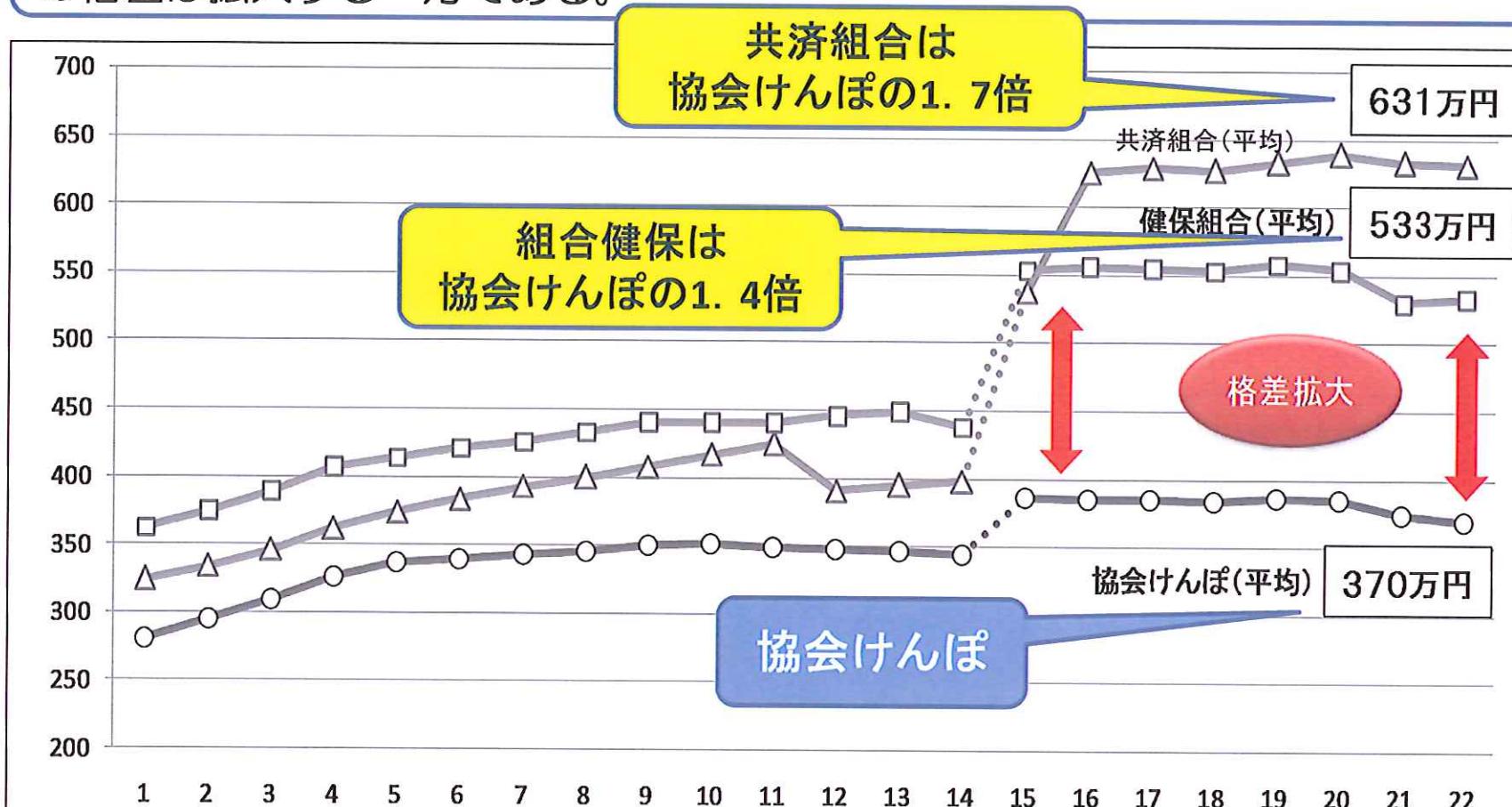
協会けんぽの平成15年度以降の医療費（保険給付費）と 賃金（報酬）の伸びの推移

平成15年に比べて平成23年には、被保険者1人当たり保険給付費が1.18倍に増えているが、1人当たり標準月額報酬は0.97倍になっている。



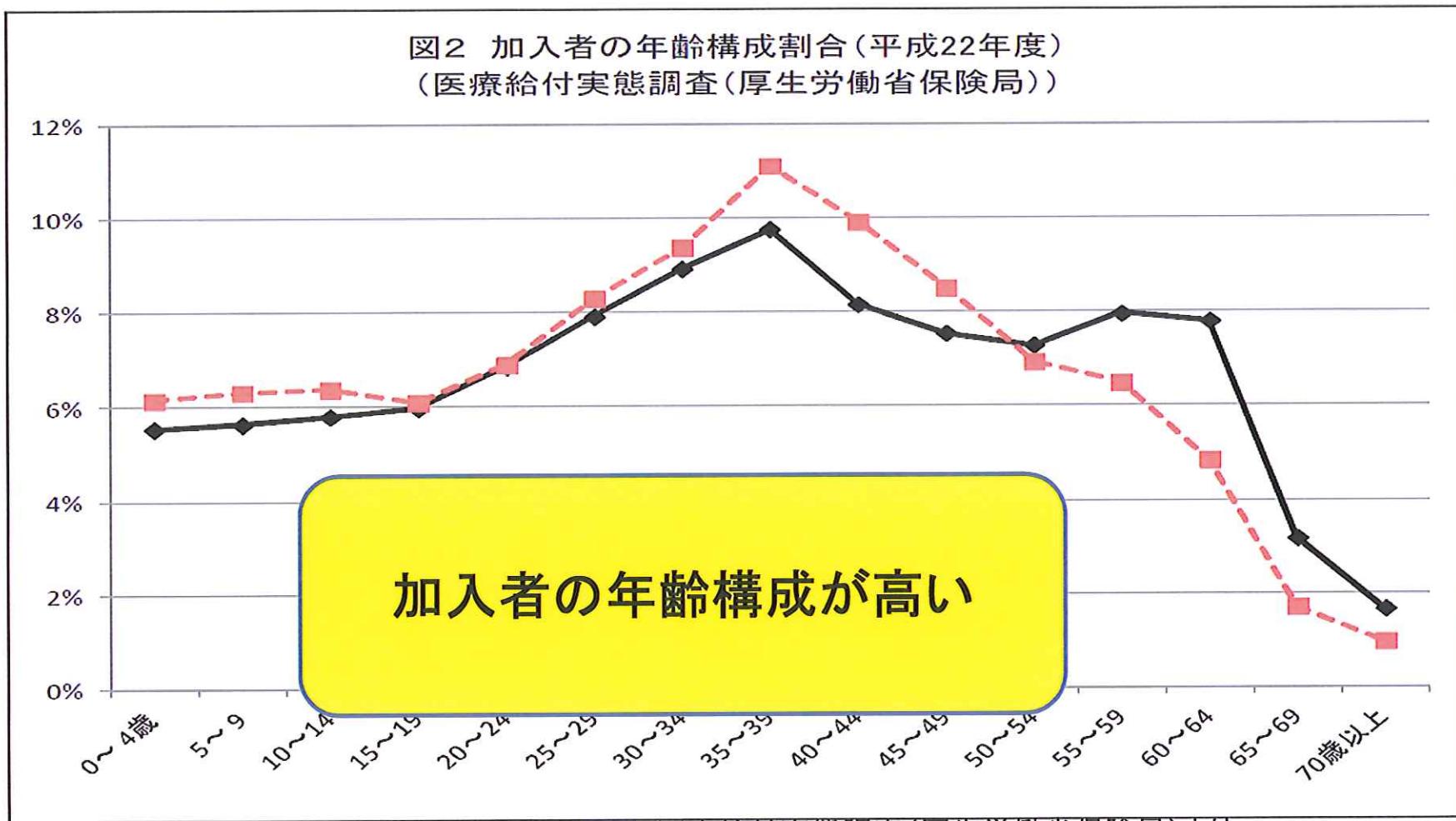
健康保険組合等との報酬格差の拡大

協会けんぽ加入者の標準報酬は健保組合、共済組合加入者と比べて低く、その格差は拡大する一方である。



加入者の年齢構成割合(平成22年度)

協会けんぽ加入者の年齢構成割合は、健保組合と比べて50歳以上が多くなっている。



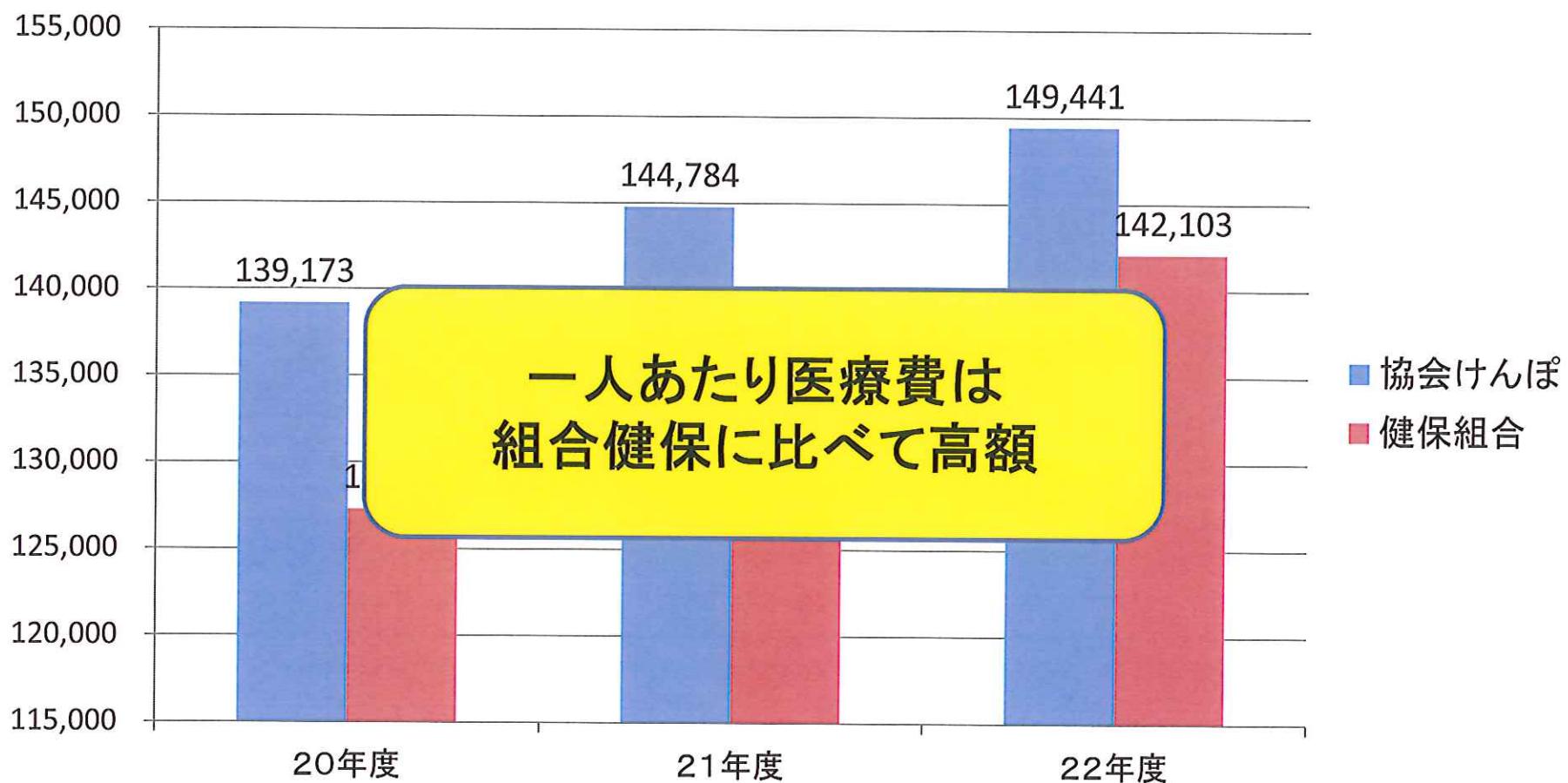
医療費と健診結果の分析



全国健康保険協会

加入者1人あたり医療費の年次推移(年齢調整後)

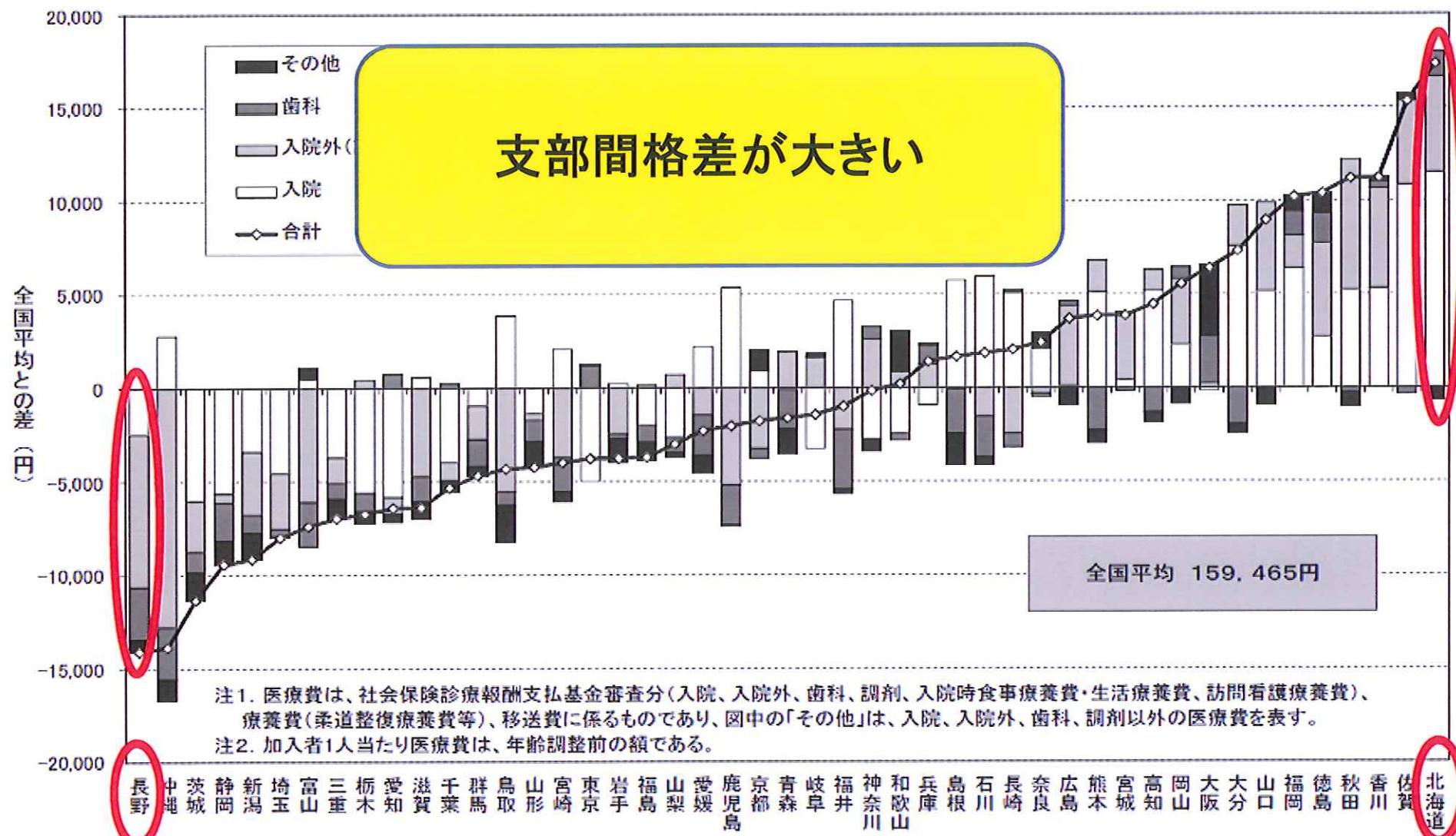
協会けんぽ加入者の医療費は、健保組合と比べて7,300円（平成22年度）高くなっている。



加入者1人あたり医療費(年齢調整後)は、医療給付実態調査(厚生労働省保険局)に基づき協会けんぽが計算した。

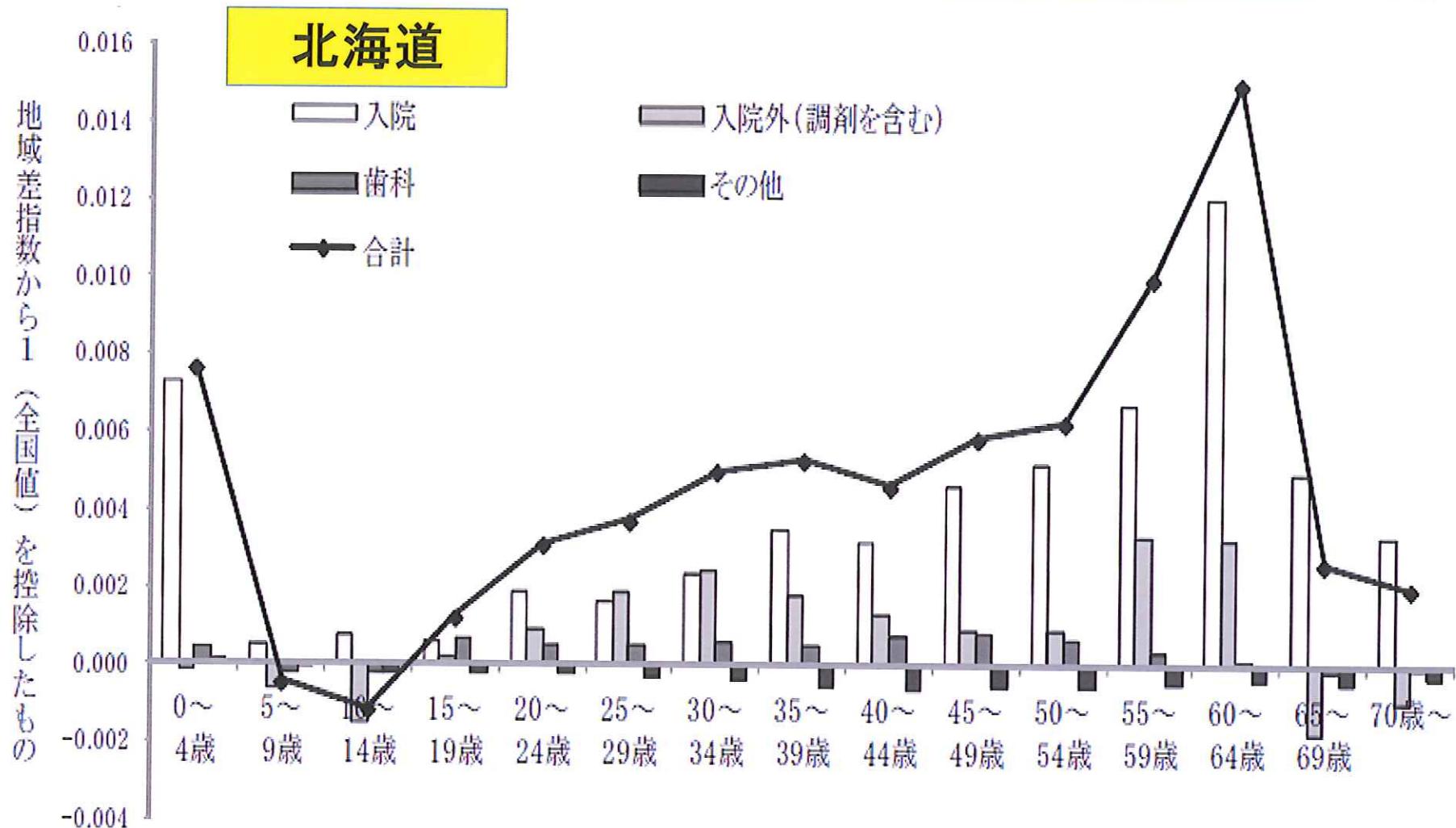
都道府県別加入者1人当たり医療費の状況 (全国平均との差) (平成23年度)

医療費の地域差が大きい。協会けんぽだけの問題ではないと考えている。



年齢階級別診療種別地域差指数等（平成23年）

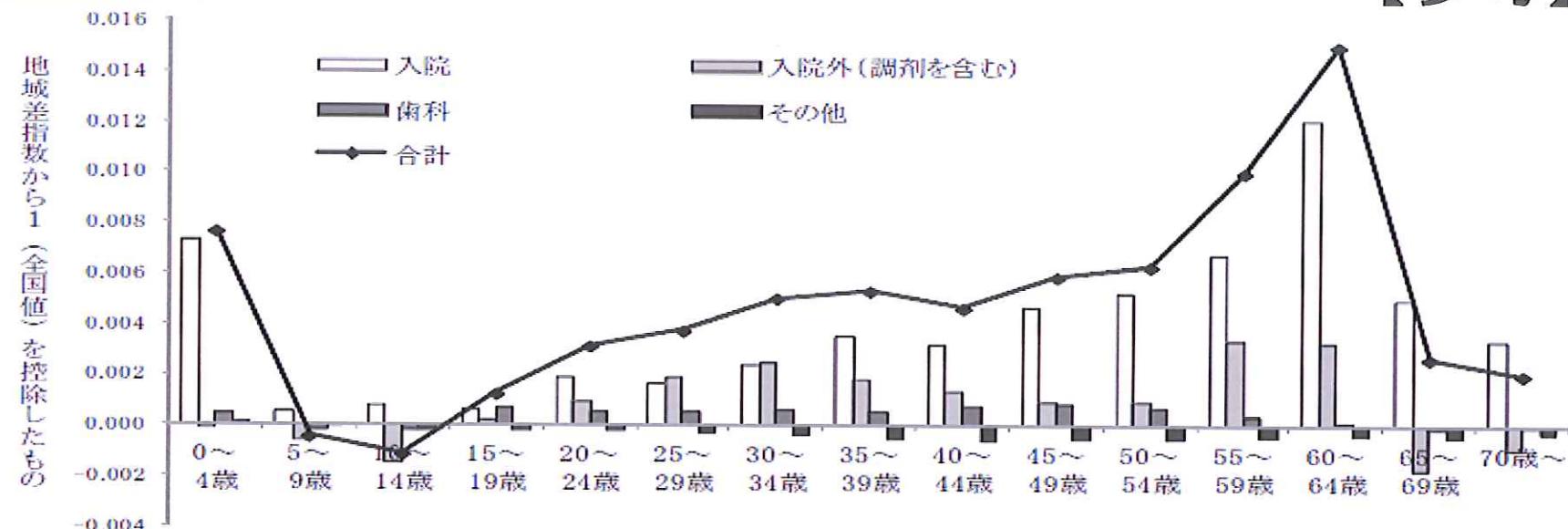
北海道における医療費は、全国平均と比べ、5～14歳までの学齢期を除き、
いずれの年齢も高くなっている。



北海道

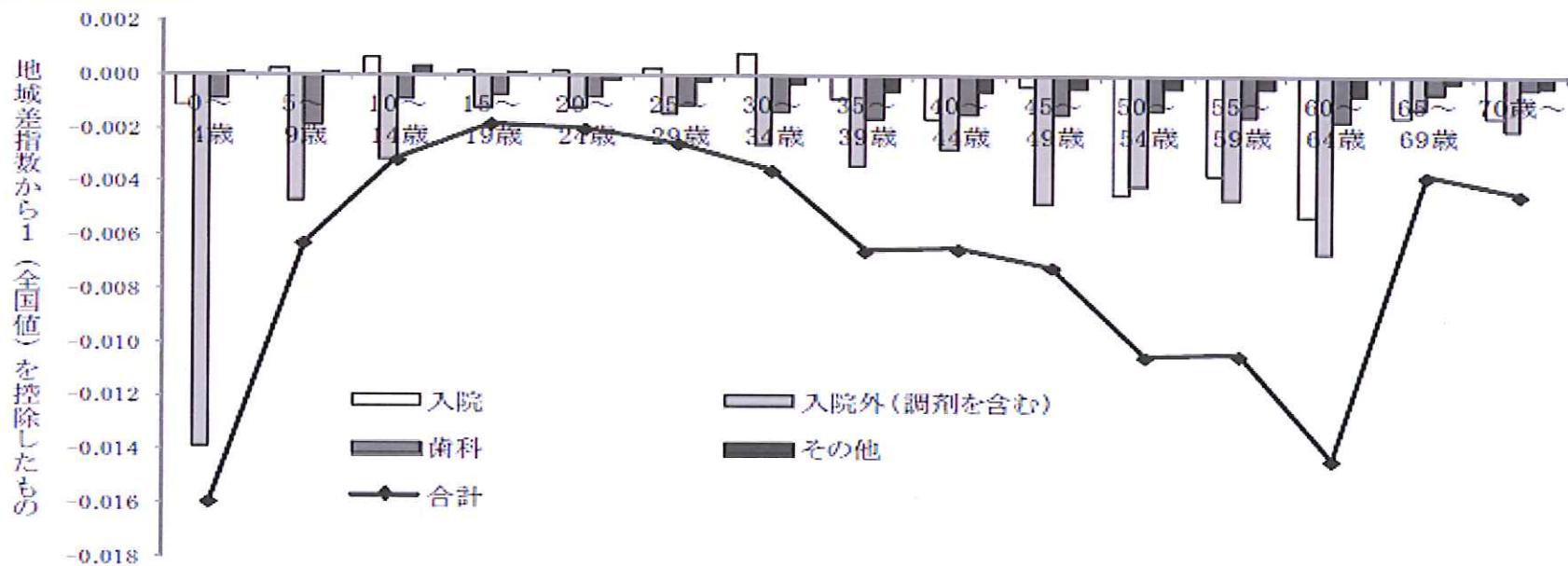
(地域差指数 - 1 = 0.071)

【参考】



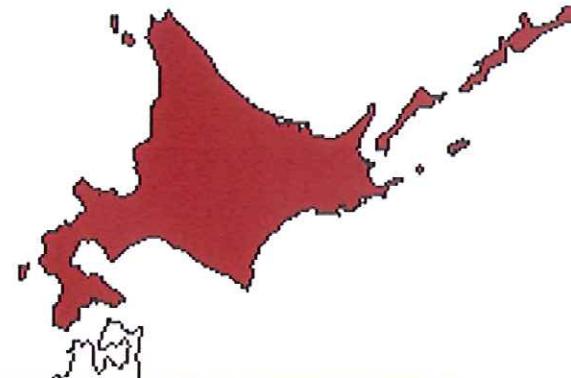
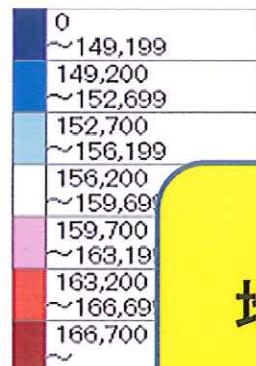
長野

(地域差指数 - 1 = -0.098)

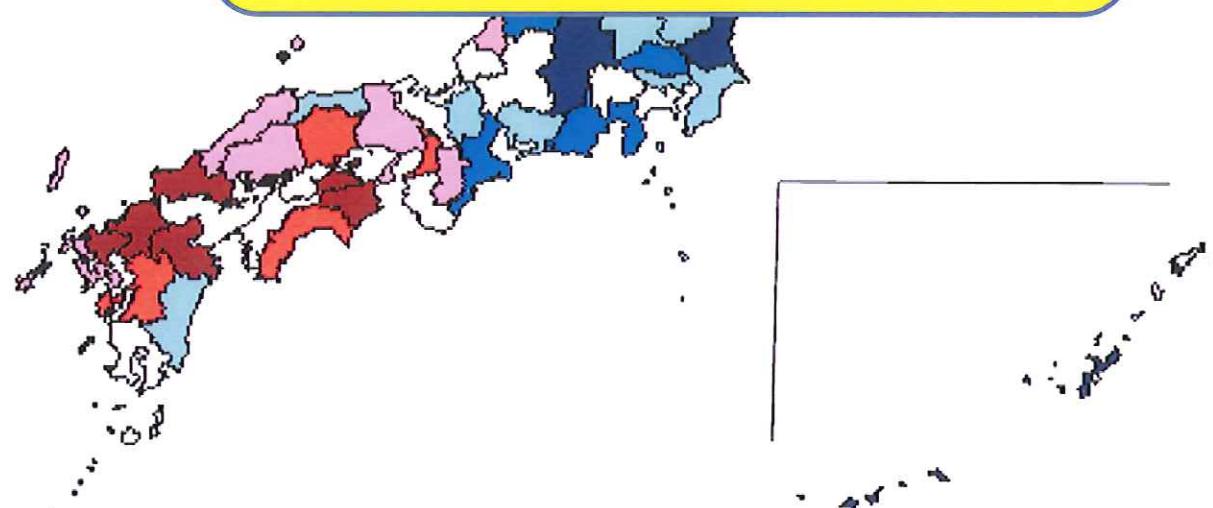


協会けんぽの医療費の状況（平成23年度）

1人当たり医療費(合計)



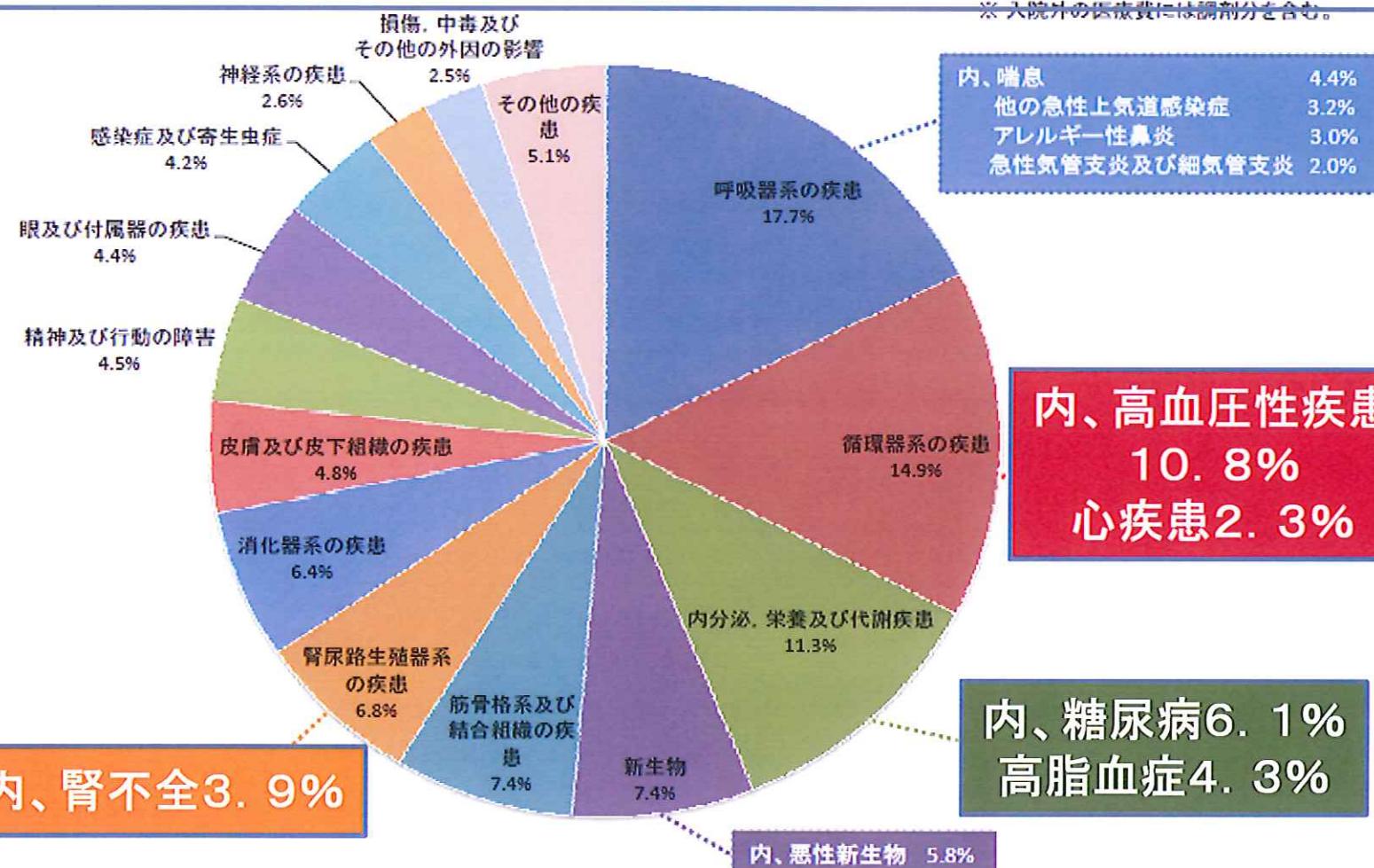
支部間格差は、
地域の医療体制等の問題が
大きいのではないか



入院外医療費の内訳（平成22年4月～23年3月）

入院外医療費の内訳は、高血圧性疾患10%、糖尿病6.1%、腎不全3.9%である。

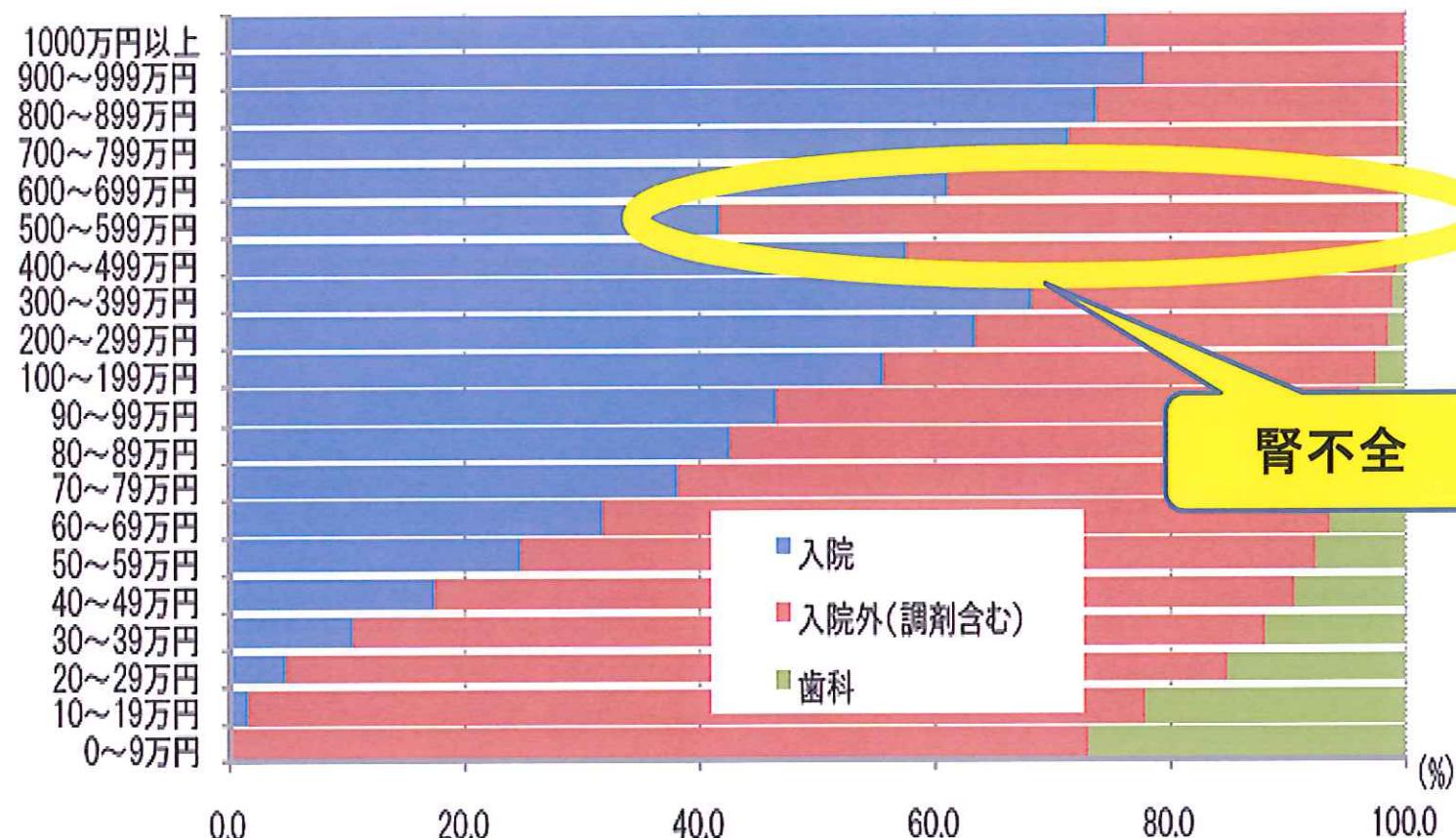
※ 入院外の医療費には調剤分を含む。



年間医療費階級別の医療費の診療種別内訳（構成割合）

20年10月～21年9月

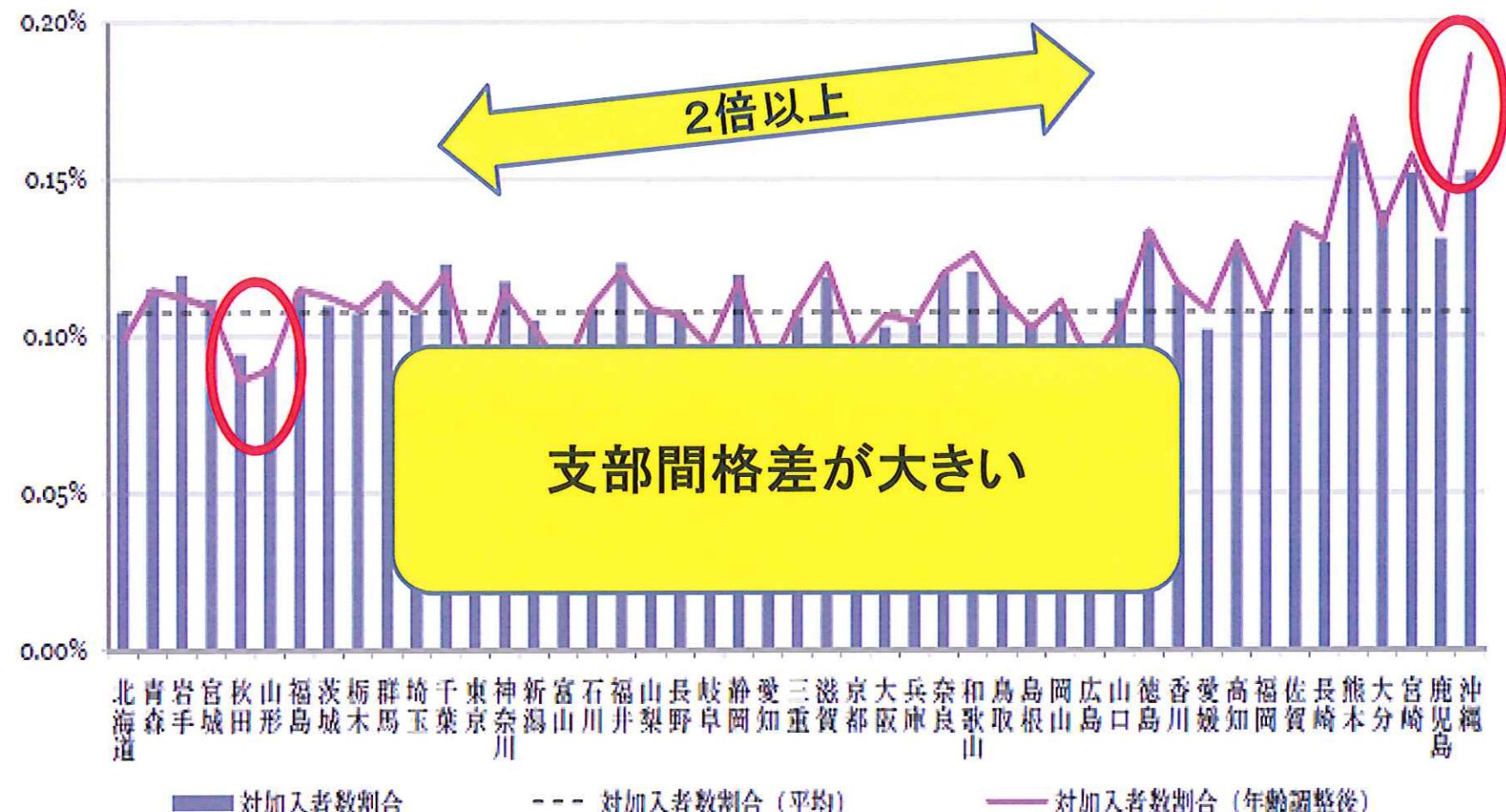
年間医療費が高額になるほど入院医療費が占める割合が高くなるが、500～599万円階級は、入院外医療費が60%近くを占めている。



注：加入期間が1年間ある患者について、平成20年10月～平成21年9月までのレセプト(医科歯科調剤)から集計したもの

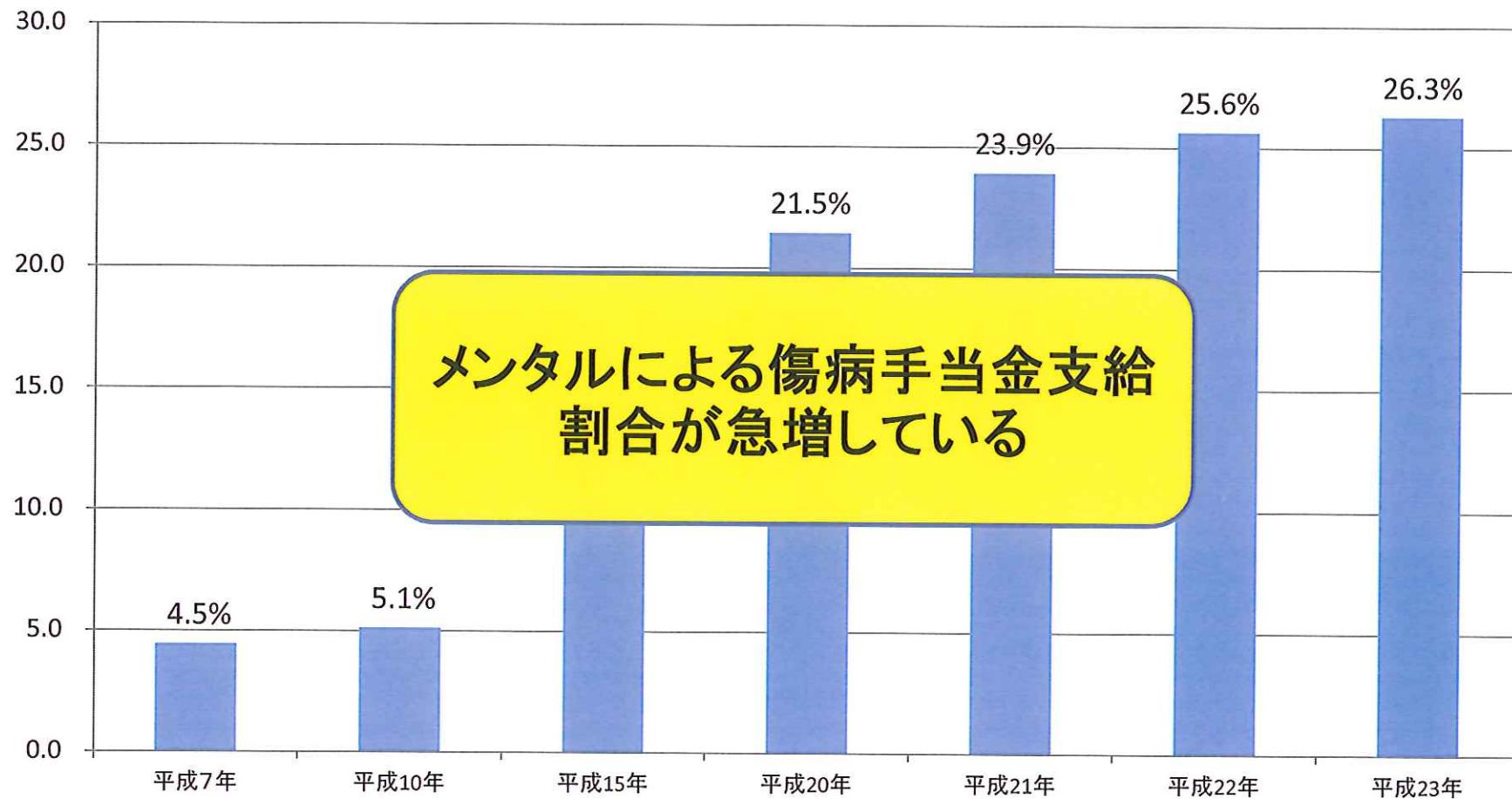
都道府県別人工透析患者数の対加入者割合（男性） (平成22年8月)

人工透析を受けている者は31,000人で、加入者の0.089%（男女計）である。四国・九州地域に患者数の割合が高い。



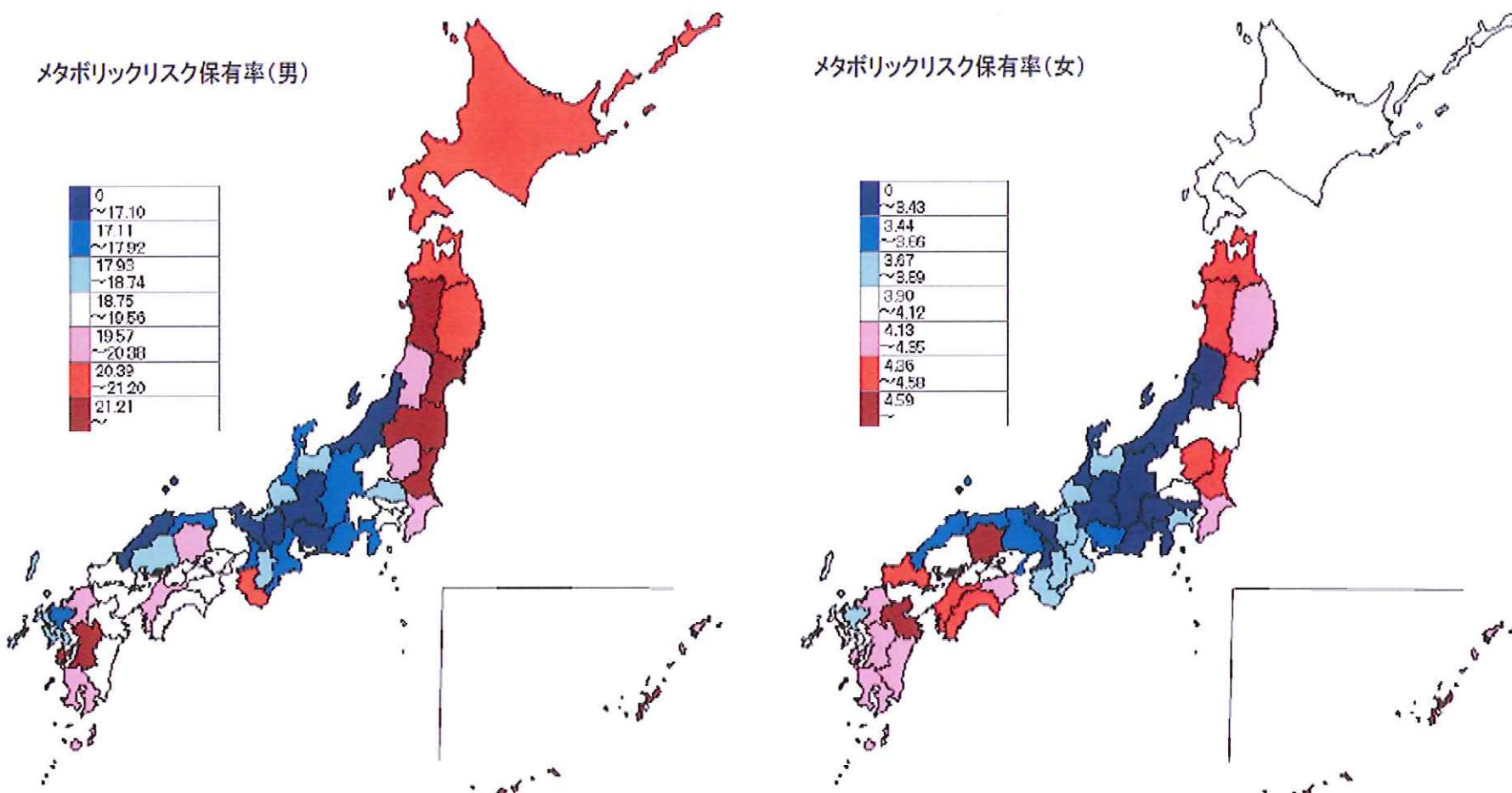
傷病手当金支給件数のうち、精神及び行動の障害による支給割合の変化（平成7年度から23年度）

精神及び行動の障害による支給割合は、平成7年4.5%から平成23年26.3%と約6倍に増えている。



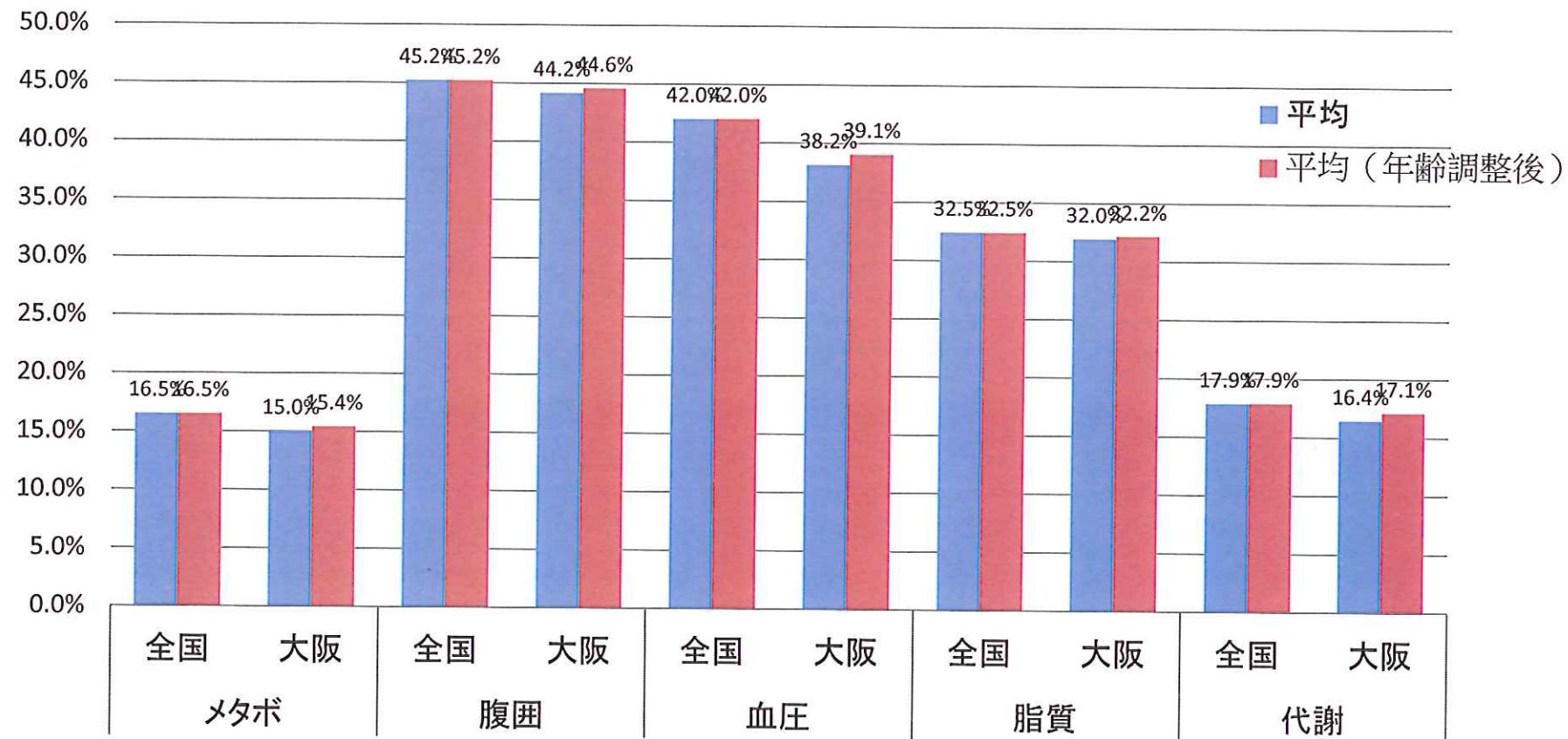
全国健康保険協会 現金給付受給者状況調査報告より

メタボリック保有者の状況【参考】



メタボリックシンドローム関連リスクのある者の割合（男） (平成20年) (全国と大阪支部の比較)

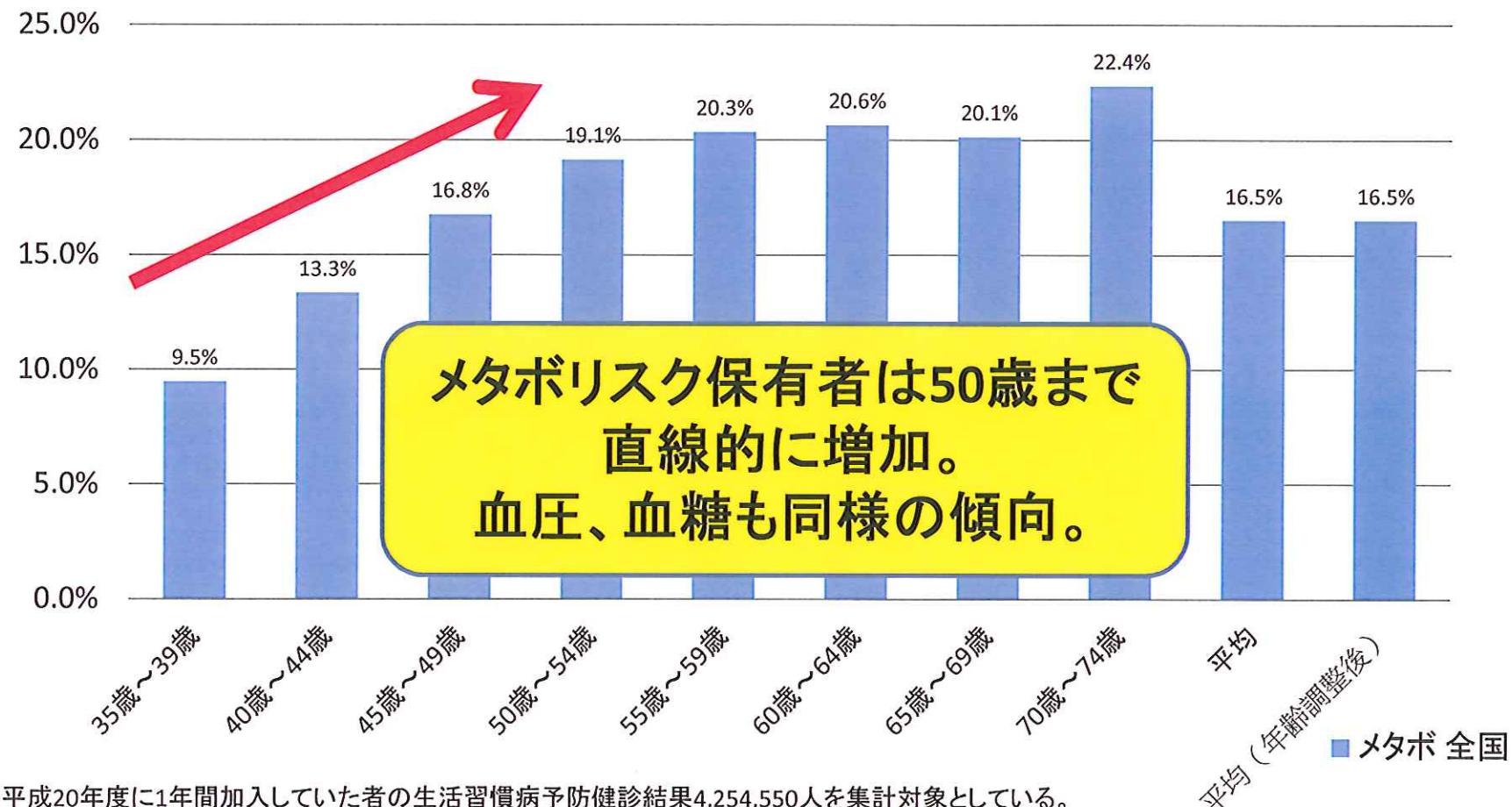
男性では、血圧、腹囲リスクを持つ者は40%、脂質リスクを持つ者は30%、代謝リスクを持つ者は17%、メタボリスクを持つ者は16%である。全国と大阪支部は同じ傾向である。



※平成20年度に1年間加入していた者の生活習慣病予防健診結果4,254,550人を集計対象としている。

年齢階級別メタボリスク保有者の割合（男） (平成20年)

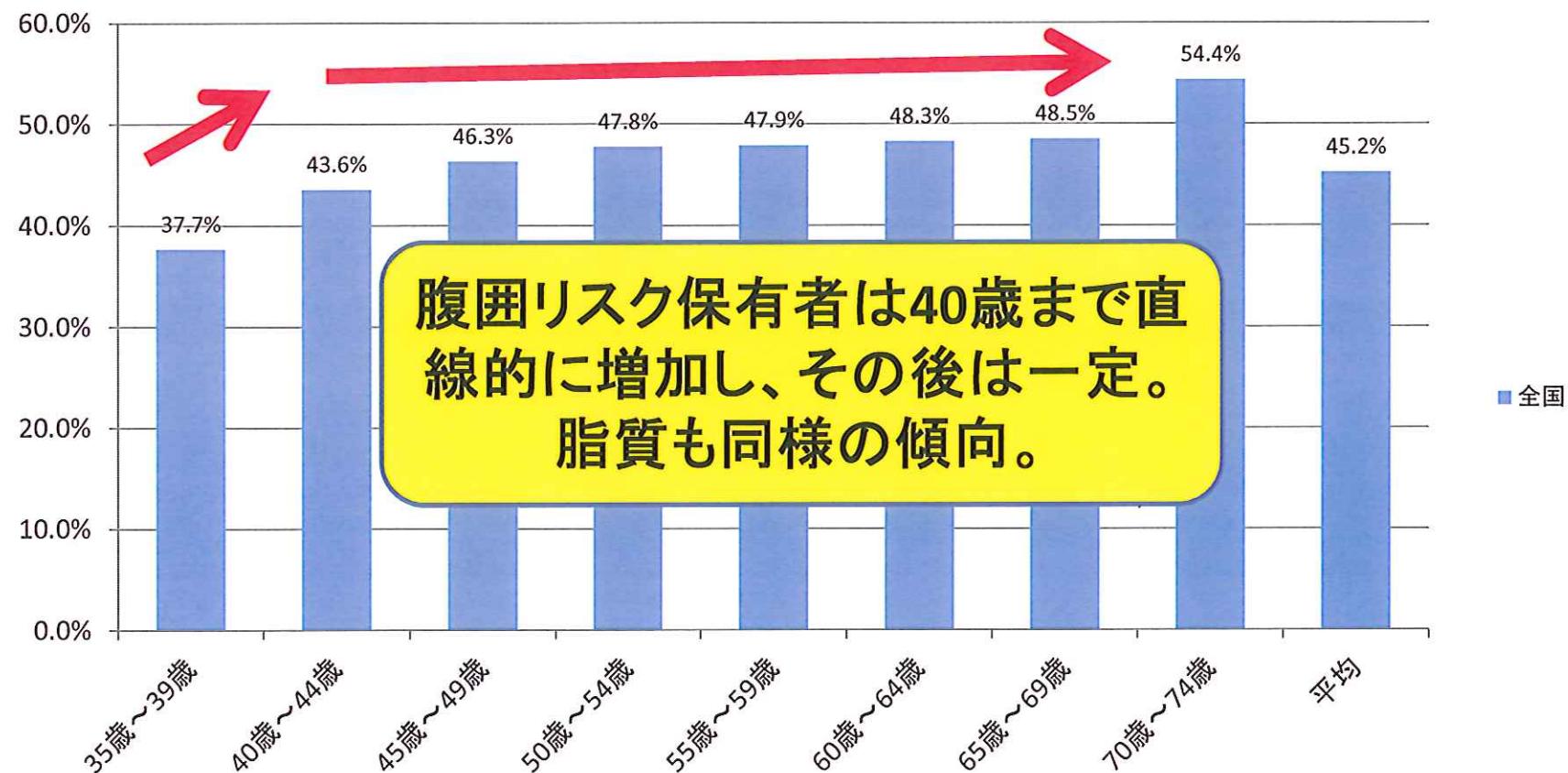
35歳から50歳までにメタボリスク保有者は直線的に増えている。この傾向は、血圧、代謝についても同様の傾向である。



※平成20年度に1年間加入していた者の生活習慣病予防健診結果4,254,550人を集計対象としている。

年齢階級別 腹囲リスク保有者の割合（男） (平成20年)

35歳から40歳までに腹囲リスク保有者は直線的に増えている。脂質についても同様の傾向である。



※平成20年度に1年間加入していた者の生活習慣病予防健診結果4,254,550人を集計対象としている。

生活習慣の状況－標準的な質問票から－（平成20年）

	協会けんぽ	
	男性	女性
喫煙する人	50.0%	17.7%
20歳時の体重から10kg以上増加した人	43.5%	24.6%
1日1時間以上の歩行又は同等の身体活動をしている人	31.5%	29.6%
1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人	20.4%	14.2%
歩く速度が速い人	45.3%	40.7%
この1年間で体重の増減が±3kg以上の人	24.4%	22.5%
食べる速度が速い人	35.9%	30.8%
就寝2時間前の食事が週3回以上の人	40.7%	23.7%

	全国	
	男性	女性
夕食後の間食が週3回以上の人	15.4%	22.5%
朝食抜きが週3回以上の人	25.6%	17.6%
飲酒(毎日飲む)をする人	43.9%	14.0%
1日当たりの飲酒量が2合以上の人	25.6%	7.9%
睡眠で休養が十分とれている人	61.3%	55.4%
運動や食生活等の生活習慣改善意欲がない人	30.7%	25.4%
機会があれば保健指導を利用する人	51.0%	52.7%

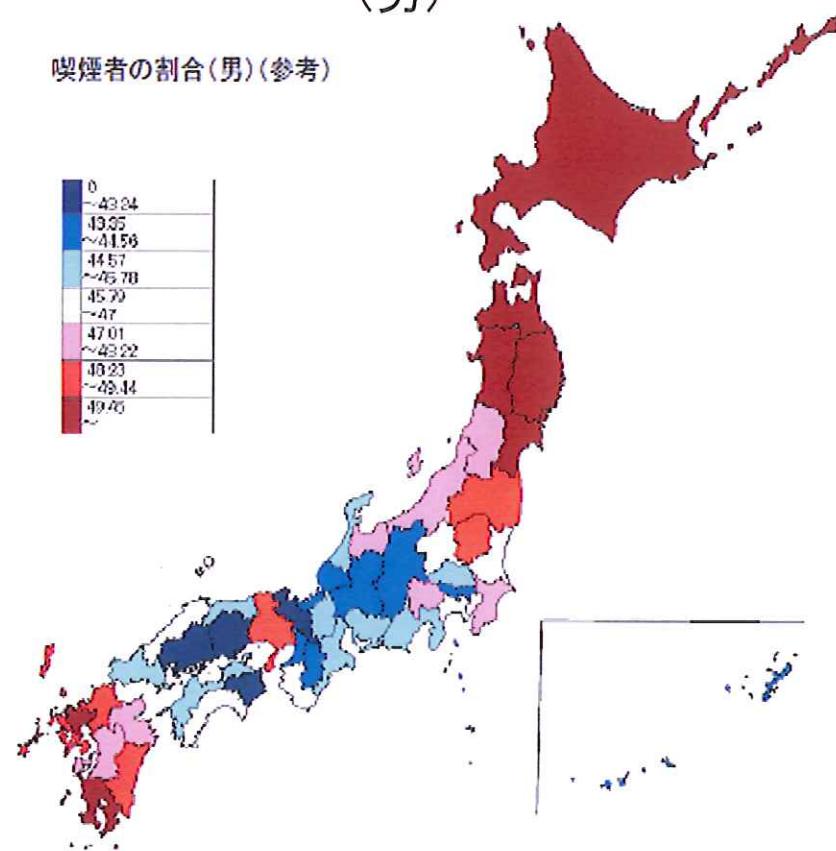
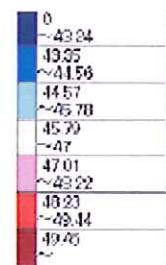
※平成20年度に1年間加入していた者の生活習慣病予防健診結果4,254,550人を集計対象としている。

質問票の分析

喫煙の状況【参考】

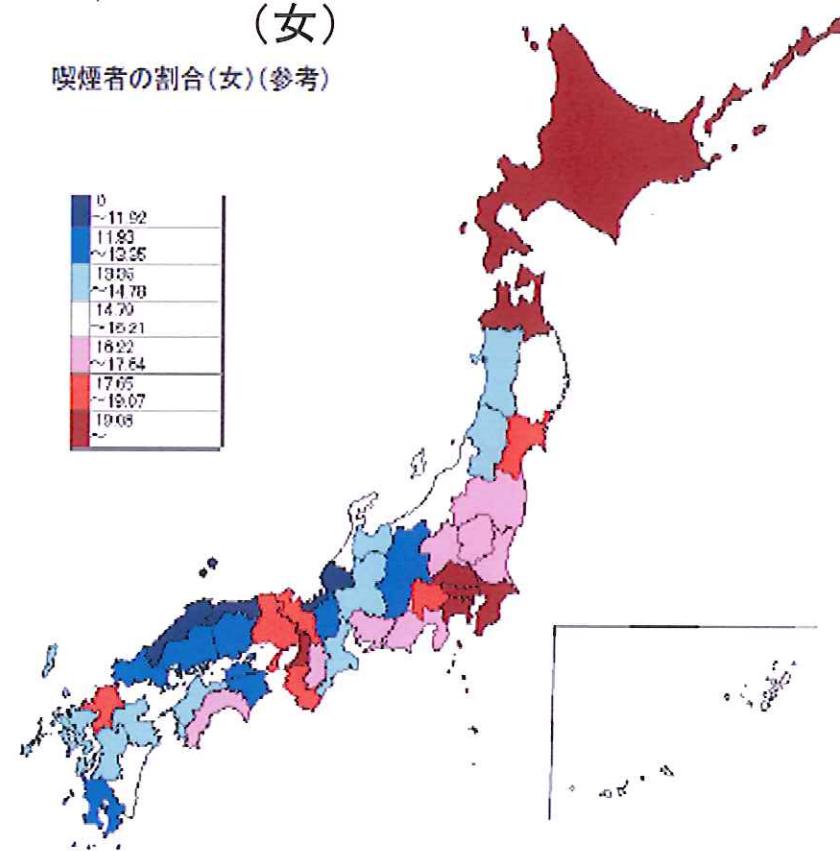
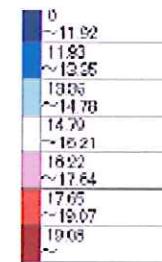
(男)

喫煙者の割合(男)(参考)



(女)

喫煙者の割合(女)(参考)

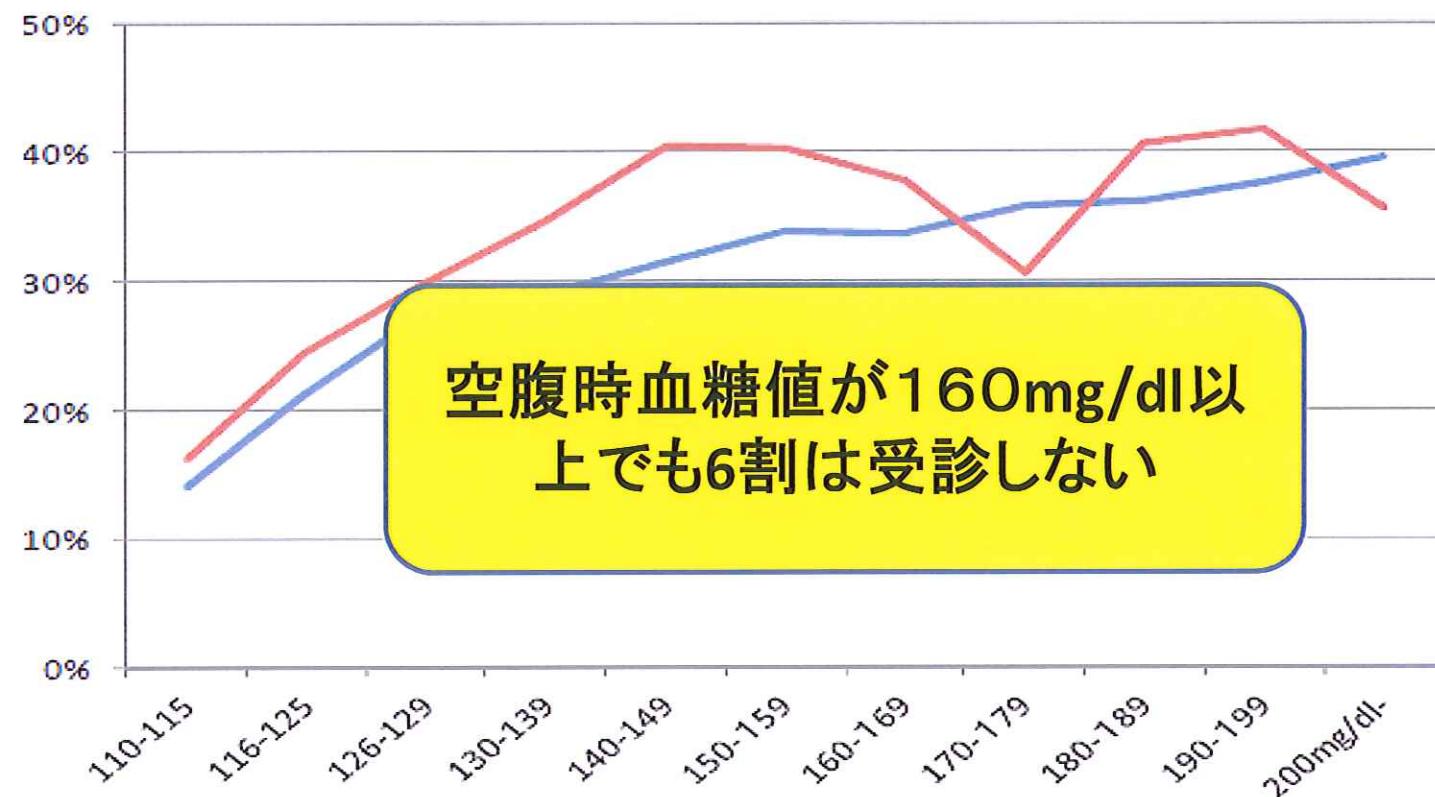


平成22年度末に1年間協会けんばに在籍した者の中、21年度に生活習慣病予防健診を受けた者の問診票を集計した

健診1年前に医療機関受診がない者の健診1年後の受診状況

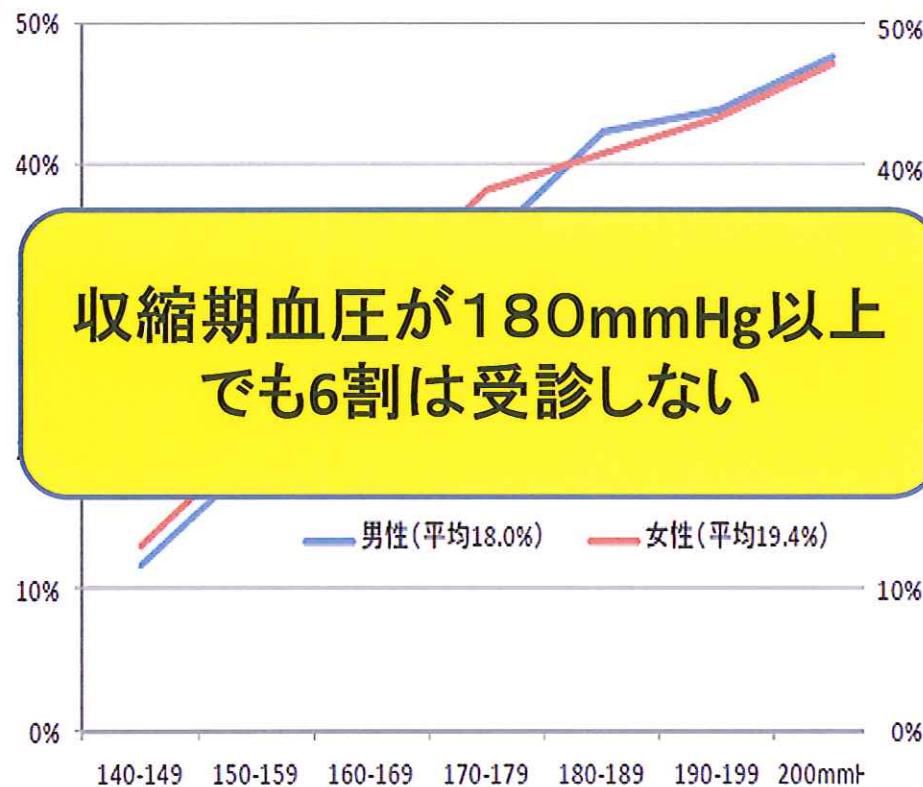
空腹時血糖値150mg/dl以上で1年後に糖尿病で医療機関受診をした者は37%である。健診を受けて要治療又は要精密検査と判定されても受診しない者が6割以上である。

(1) 糖尿病



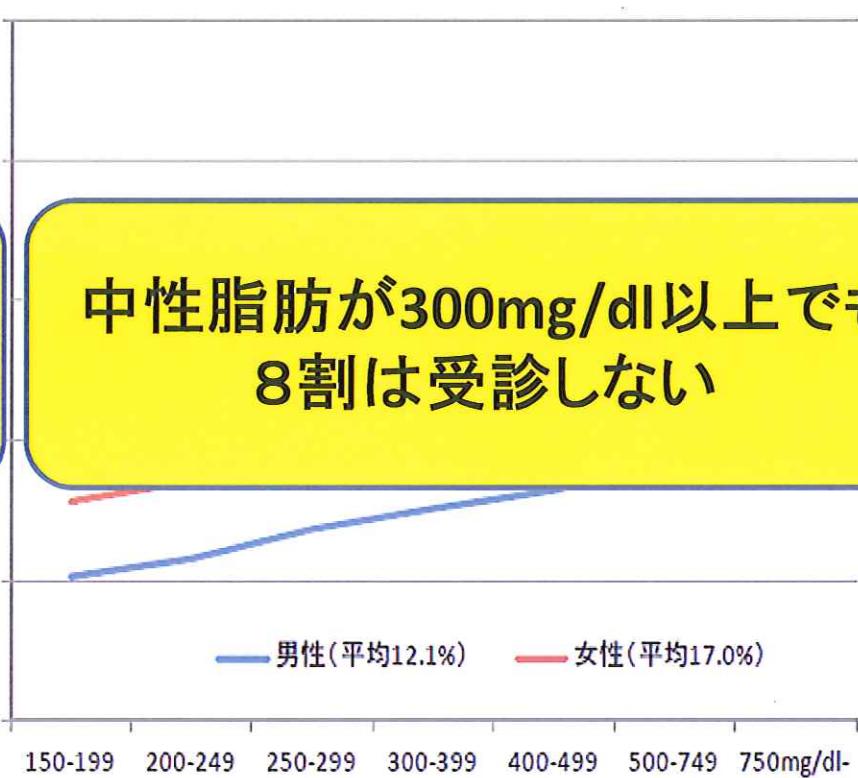
収縮期血圧180mmHg以上で健診1年後に高血圧症で医療機関受診をした者は43%で、約6割は受診しない。また、中性脂肪300mg/dlで受診した者は17%程度で、約8割は受診しない。

(2) 高血圧症



収縮期血圧が180mmHg以上
でも6割は受診しない

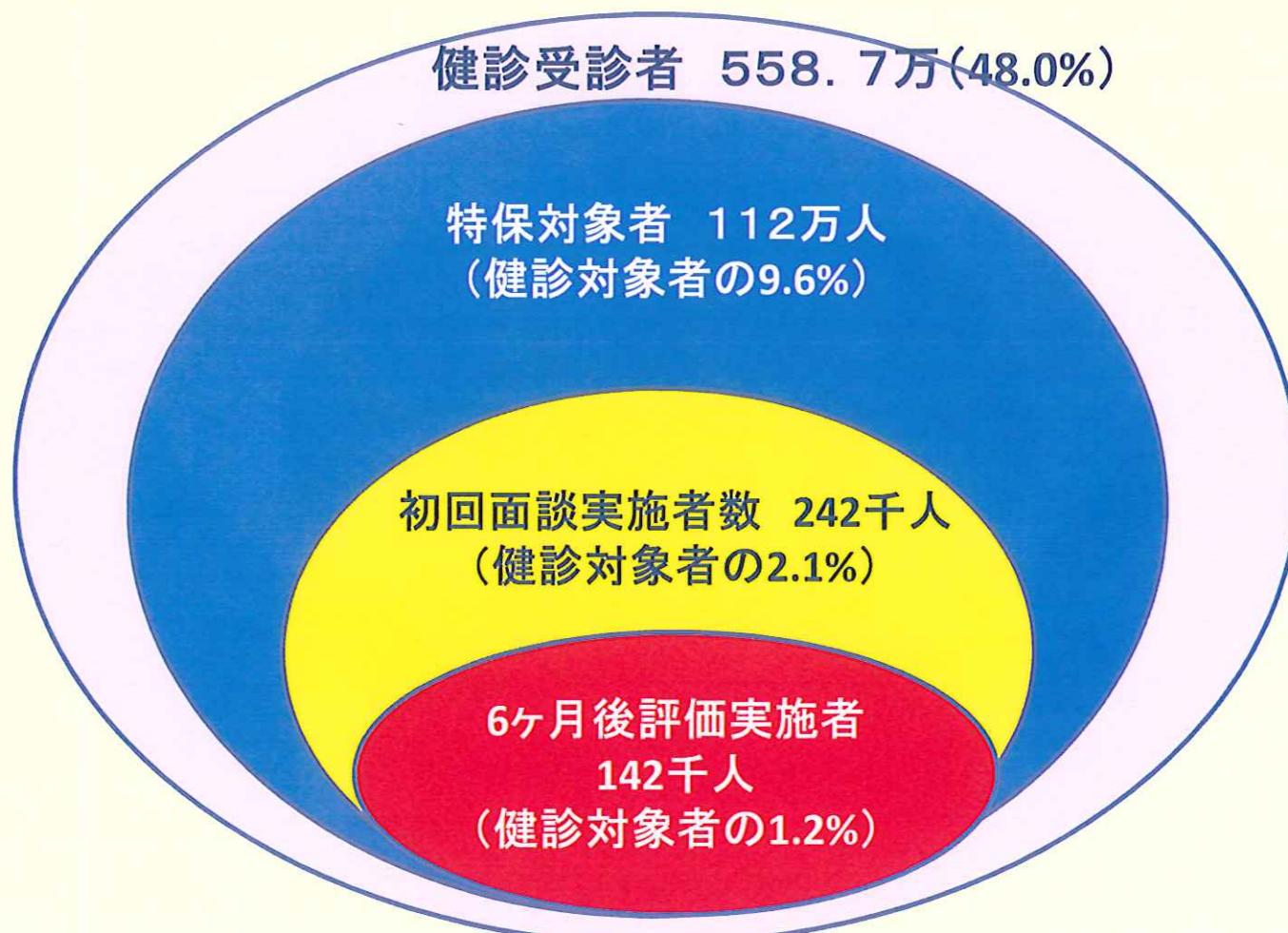
(3) 高脂血症



中性脂肪が300mg/dl以上でも
8割は受診しない

特定健診・保健指導実施状況

健診対象者(被保険者・40歳以上75歳未満) 1165万人



【事例】タクシー業

BMI25以上 41.7%	空腹時血糖値126以上 12.5%
中性脂肪150以上 33.3%	HDL35未満 14.6%

■安全衛生委員Aさんの懸念

- ・運転手はストレスが多い
- ・従業員同士の交流が難しい
- ・仕事や職場に対する満足感が低い

■運転手Bさん(36歳)

- ・自覚症状もあり、糖尿病が悪化していることは分かるが、歩合制のため仕事を休めず、医療費の負担も重く、放置。
- ・母は寝たきりで自宅で兄弟で介護。
- ・健診結果が悪いと仕事に差し支えるため、3日間絶食して健診を受けた。
- ・朝抜き、昼はラーメン、夜は弟が作る。
- ・BMI33.6、尿蛋白(3+)、HDL29mg/dl、Ht52.5

■運転手Cさん

- ・飲食店を廃業し、転職して10キロ増えた。
- ・15時間勤務後、早朝牛乳配達。
- ・狭心症を発症してから酒を減らして、今は1日3合。

■取締役Dさん

- ・深夜勤務をする運転手は2日出勤して1日休み。楽な仕事。十分休める。健康管理は自己責任。

事業所における加入者・事業所への支援 － 協会けんぽの保健師の役割 －



- 個々の加入者の心身の健康課題に対して支援する
- 個々の加入者の健康課題から事業所の健康課題を把握して、事業主とその解決策、施策を企画・実践する
- 事業所の健康課題や各種データ、ニーズ把握などにより地域における健康づくり施策を構築する